

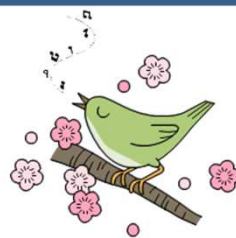
第58号

ほっと

発行(R2年3月)

公益社団法人
高知県看護協会
保健師職能委員会
〒780-8066

高知市朝倉己825-5
TEL 088-844-0678
FAX 088-844-0053



第7回 高知県保健師交流大会報告

テーマ 「保健師の働き方を考える」

令和2年1月25日(土) 会場:南国市保健福祉センター2階多目的ホール

今年も高知県保健師交流大会が開催されました。本大会は、地域、職場や世代を越えて保健師同士が語り合い、保健師らしさを継承しエンパワメントする交流です。今回は、高知市健康福祉部の村岡晃部長による話題提供と、ワールドカフェが行われました。講師の村岡部長からは、仕事の経験を通じて考える保健師の役割や働き方についてお話いただきました。

市町村衛生職員協議会、教育機関、高知市、高知県と取り組む実行委員会の活動をとおして準備するとともに、会場となった南国市保健師の方々の協力のもと、55名の保健師の方々に参加いただき、和気あいあいとした雰囲気のなか開催することができました。

話題提供 13時35分～

演題「保健師に求められる役割と働き方
～住民の希望となる保健師活動のために～」
講師 高知市健康福祉部 部長 村岡 晃 氏

参加者の感想(アンケートの自由記載より)

“希望となる保健師活動”という言葉が心に残りました。力をもらいました。

人と人とのつながりや、地域の中で役割があることが、「希望」をもつことになる。こういう地域づくりの視点が大事というお話が、心に響きました。

仕事の仕方、働き方についての確かな言葉で指導してくれる部長さんはとても魅力的な上司だと思いました。保健師の方々も、日頃から自分たちの仕事もきちんと伝えていからこそ、上司との関係性もよいのではと思いました。

ワールドカフェ 14時50分～

「カフェ」で行うような、自由な会話を楽しみながら、保健師同士で世代や地域を越えた交流を行いました。

参加者の感想(アンケートの自由記載より)

色々な市町村の情報が知れました。お互いの状況が分かりあえてよかったです。普段関わることのない保健師の方々とお話できました。

新任保健師の日頃の思いを聞いてよかった。保健師として大事にしているところをどのように育てていくか考えさせられた。

保健師の働き方を改めて考える機会になった交流大会です。来年は、どんな企画がうまれるか、楽しみにしててください！



お世話になりました！これからもお元気で！

令和元年度末をもって退職される保健師の先輩会員さんからメッセージをいただきました。(順不同)

～退職の日を迎えて～

土佐市 健康づくり課 楠瀬しのぶ

眩き:10年前に退職までのカウントダウンを始めたのですが、5年を過ぎてからが随分早かったように思います。保健師の業務内容と範囲が年々多岐に渡り大変と感ずることが多かったですが、反面、色々な方に出会えて楽しくもありました。自分の知識に自信がないときはそれなりの結果が出、随分勉強して、一所懸命に伝えたときには、相手の心に響きその反応に喜びを感じたりもして。振り返れば、反省することが多々あるので、ただただ前を向いてこれからの生き方にプラスに転じて行こう！と思います。お世話になった皆様に感謝いたします。

～退職にあたって～

いの町ほけん福祉課 森 紀子

私の保健師人生は、昭和58年、高知県の駐在保健師として、人口約1200人の本川村からスタートしました。その後、保健師駐在制度の廃止に伴い、より住民に近い市町村で継続して働きたいと思い、平成12年にいの町の保健師として再出発しました。保健師としての私の幸せは「保健師人生の半分を県保健師、半分を市町村保健師」として過ごし、両方の強み、弱み、そして、協働の大切さが実感できたことです。また、住民を取り巻く環境は、大きく変わっても保健師活動の原点は、「住民の生活全体によりそい、住民とともに、この地域をよくするために、町づくりの視点で取り組むこと」だと思っています。保健師のみなさまは、これからも自分を大切に、仲間とともに、自信と誇りをもって頑張ってください。

～退職にあたって～

香南市健康対策課 高橋 広美

昭和57年旧夜須町に採用となり、県の駐在保健師さんと同じ事務所で仕事をスタートし、平成18年には合併もあり、時代の変化をととても感じています。こうして退職の日を迎えられたのは、多くの先輩、同僚、後輩、地域の皆様に育てられ、また支えていただいたおかげだと思えます。ありがとうございました。保健師という仕事は本当にいいものです。この仕事ができよかったと思えますし、好きです。国から降りてくる多くの事業、専門化、細分化され、他課の業務が見えにくく、色々大変なこともあるとは思いますが、保健師の持つパワーを存分に活かして頑張ってください。

～感謝をこめて～

高知県健康政策部 田村 美智

定年退職を迎えるにあたり、市町村や県の保健師の皆さんには大変お世話になり感謝いたします。

今日まで保健師人生の前半を4市町の駐在保健師、後半の大半を本庁保健師として、現場での地区活動から県行政施策の業務と幅広い経験をさせていただき、多くの方々との出会いと学びがありました。現在、社会保障制度が大きく変化し地域社会のニーズも複雑化するなか大変ですが、県、市町村それぞれの部署に所属していても、ぶれることなく高知県の保健師としての基本姿勢である「高知県保健師のめざす姿(保健師八策)」の人々の生活を見て暮らしを支えることができる保健師の原点に立ち返り、保健師のほこりと地域への責任をもつ熱意を持ち続けて頑張りたいと思います。

～大正町「健康いっぱい、花いっぱい」から31年 高知県の仲間へ

「感謝いっぱい、愛いっぱい」を込めて～ 中央東福祉保健所 宇佐美 佳代

新任期の私：保健婦室長に「月報、間違えちゅう」と叱られる一方「この取組は良いき学会へ発表しなさいや」「この研修行きや。資格取れるぞね」とおだてられ「はい！」と乗ってしまう。住民からの学びを楽しく得るため、健康相談、健康まつり、地区懇談会や運動会では「こうしたらどうでしょ」と提案→「えいねえ、やろう！」と言ってくれる住民や職場の先輩方に励まされ、守られて育つ。

中堅期の私：なんで私が事務職？看護学校教員？持ってないスキルで勝負していく辛さ、情けなさを痛感しつつも、生来の負けず嫌いが頭をもたげ、自身と闘うこと数年→保健師業に戻ってからは、法改正した感染症対策やメタボ対策の知識と実働の取得、資料作成に追われっぱなし。苦しいことも多々あったけれど、『やるなら楽しく！』の姿を認めてくれた人々に支えられた。

現在の私：災害、福祉など改めて『地域』を意識する中、『家族』の世代交代という課題に直面。悩んだ末に帰郷&転職という挑戦の結果、住み慣れた高知から旅立つことを決意。ただ、後輩保健師の成長と世代交代を見届けられないのが心残り。

★最後に：保健師は『人それぞれの「生き方」を知る』という、興味が尽きない仕事。新天地では、市民の健康な暮らしを支えるため公衆衛生と看護の基礎を忘れず、私なりのワークライフバランスを実現したいと思います。皆様、本当にありがとうございました！

～退職にあたって、心からのお礼～

安芸福祉保健所 山本 美栄子

陽春の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

昭和60年の大豊町東豊永保健婦駐在所に始まり、役場や住民の皆様にて育てられながら一緒に保健活動をし、平成6年の法制度改正により福祉保健所で活動してきました。看護職は、住民の健康や暮らしを見つめ、情報を読む中で、課題発見や解決への仕組みづくりを考え、広い視野で解決法を提案できる役割があると思って仕事をしてきました。年末に北海道に行く機会があり、高知県の人の思いやりのある繋がりを再発見し、大好きな高知県の発展を願っています。結びに、出逢えた全ての方に支えられ、今日を迎えられたことに心から感謝を申し上げ、皆様のご多幸とご活躍をお祈りいたします。

先輩方への感謝の気持ちとともに、保健師マインドのバトンを引き継いでいきましょう

開催日:令和2年1月19日(日)

令和元年度3職能合同研修会

次世代育成支援事業

生きる力を育むいのちの教育

専門職が親世代と共に取り組むためのアプローチ



平成29年度から取り組んでいます「生きる力を育むいのちの教育」について、今年度は3職能合同で7月の職能集会にてこのテーマで研修会を開催しました。その後、「3職能合同検討会」を全職能委員会を中心に立ち上げ、今回の研修企画や今後の活動計画等について検討をいたしました。

今回も、スーパーバイザーとして、渡會睦子教授(東京医療保健大学)をお招きし、研修会を開催しました。テーマは、子どもの生きる力を育むための支援を親世代と専門職が共に共通認識を持って取り組むための親世代等へのアプローチを理解していくために、職能団体としての県看護協会の活動報告や県教育委員会と自治体の母子保健での取組について紹介し、高知県の現状課題の共有を図りました。その後、渡會教授より、今高知県で何が必要なのか、アドバイスをいただき、7グループに分かれて、ワークショップをしました。高知の未来を担う子どもたちのために、皆真剣に、互いの専門性を活かした意見交換が活発に行われていました。参加者は、総勢49名でした。

●高知県看護協会における取組の経過説明(関助産師職能理事)

●取組みの紹介

「これから学校保健で取り組む性に関する指導」

廣田志保さん(高知県教育委員会事務局保健体育課)

「9市町村協働実践による「生きる力を育む生(性)教育」を用いた公衆衛生看護活動」

西岡 律さん(中芸広域連合保健福祉課)

●高知県の現状課題からこれからの取組みに期待すること アドバイス(ミニ講座)

渡會睦子教授(東京医療保健大学)

●グループワーク

テーマⅠ 高知県の現状課題と自分の職種との関連

～こんな風に行っているけどテーマ(養育相談・10代の人工妊娠

中絶率・いじめ・不登校等)が下がっていないのはなぜ～

テーマⅡ 自分がしたいこと 高知県で必要な対策と方法



【取組みの紹介】

廣田さん(高知県教育委員会)のご報告より

生活保護費保護人員、就学援助率、一人世帯比率等、高知県の子どものおかれている環境には、経済格差、社会格差を生み、10代人工妊娠中絶率が全国平均を上回る状態が継続している。学校では「厳しい環境にある子どもたちを含めた生きる力を育むための性に関する指導の充実」、地域では「保護者の子育て力の向上」が必要である。人間としての在り方・生き方について考えて学んでいく教育、知識だけでなく、自己決定的態度や行動の形成を促すことが必要であることが報告されました。

西岡さん(中芸広域連合)のご報告より

地区診断の研修から、健康増進、母子保健、障がい福祉の現状課題から、ライフサイクルの中で課題は異なっても、その根底には、「生きる」ための心を学ぶ教育の必要性が確認された。母子保健では、潜在的な課題に関わり続けるために、親の発達に触れながら、「親の気がかりに関わり、寄り添う相談体制」「親の学びの場」「子育ての悩みや楽しさに気づき共有する(仲間づくり)」取組みについての報告がありました。

【グループワーク】から

高知県の現状や課題について「初めて知った!」という方が多く、もっと もっと啓発や研修機会が必要と思いました。

多職種で同じ方向をみるための場の必要性
(規範的共有の必要性)

教育・医療・保健(3職能)がワンチームとなって、切れ目のない包括的な取組みが必要

【来年度の高知県看護協会としての取組み】

●研修について

現状課題の周知だけでなく、性教育の基礎編・実践編の技術的習得の研修も取り入れていきます。

●啓発用のパンフレット等の作成等

●県教育委員会と連携して、取組みを進めていきます。

○編集後記○今年も仁淀川町のひょうたん桜を見に行きたい～何千、何万というピンクの花びらが風に舞う光景は儚くも、雄大で、美しすぎて、その場に立ち会えたことに感動します。保健師魂を存分に咲かせ、今年退職される先輩方からのメッセージに、それと似た感動と勇気をいただきました。本当にありがとうございました。